

さいたま市から見る都市同士の合併による影響 や今後の展望について

岩崎響

平成 13 年 5 月 1 日に旧大宮市・浦和市・与野市が合併することでさいたま市が新設され、平成 17 年 4 月 1 日には旧岩槻市を編入し、現在のさいたま市となっていた。さいたま市の人口は全国的に見てもかなりの伸び率を誇っており、経済面や産業などのさまざまな面に繋がる人口という面でみると旧大宮市・浦和市・与野市・岩槻市からなるさいたま市の合併はマクロの視点からみると成功したと考えられる。しかし、さいたま市においても、人口の伸び率が順調とはいえ、少子高齢問題をはじめとしたさまざまな問題も含んでいる。経済的な影響という点からさいたま市の合併の是非について検討した結果、財政状況や経済面、産業面とどの点から見ても合併前後で大きな増加が見られ、今現在においても、概ね右肩上がりであるため、経済的な影響という点を見ると合併は成功であったと結論付けることができた。社会的な影響という点でさいたま市の合併の是非について検討した結果、人口動態や住民生活という点からみると、合併前後で大きな人口増加が続いており、なおかつ住民生活としては、住みやすさや定住意識が高いという理想的な状態であるということが分かった。さいたま市においては、地域のコミュニティ形成や地域と自治体の協働という点にも力を入れており大きな自治体であるさいたま市の中で、各地域のつながりを強めようとする狙いもあるということが分かった。また、合併により指定都市となることで、行政運営上にも大きな変化が起き、各地域に区を設置できるようになったため、より地域に根付いた行政運営を行うことができるようになった。そのため、社会的な影響という点で見てもさいたま市の合併は成功であったと結論付ける。